

クリーンスポーツの未来を 守るために

COVID-19パンデミック下におけるアンチ・ドーピング体制の維持

クリーンスポーツと COVID-19

WADAと世界のアンチ・ドーピング・コミュニティは、公衆衛生、安全、社会的責任を優先し、COVID-19パンデミックの課題に取り組み続ける中で、アスリートやクリーンスポーツに携わる、すべての人々の健康は、最優先事項である。

我々は強いなければならない。この困難を乗り越えた時、世界のアンチ・ドーピング・システムが完全に機能するために。

WADA and the global anti-doping community are prioritizing public health, safety and social responsibility.

As we continue to meet the challenges of this pandemic, the health of athletes and all those involved in clean sport, will continue to be front-of-mind.

As difficult as this is for everyone, we must stay strong. We will get through this situation and everyone hopes that we can return the global anti-doping system to full power as soon as we emerge.

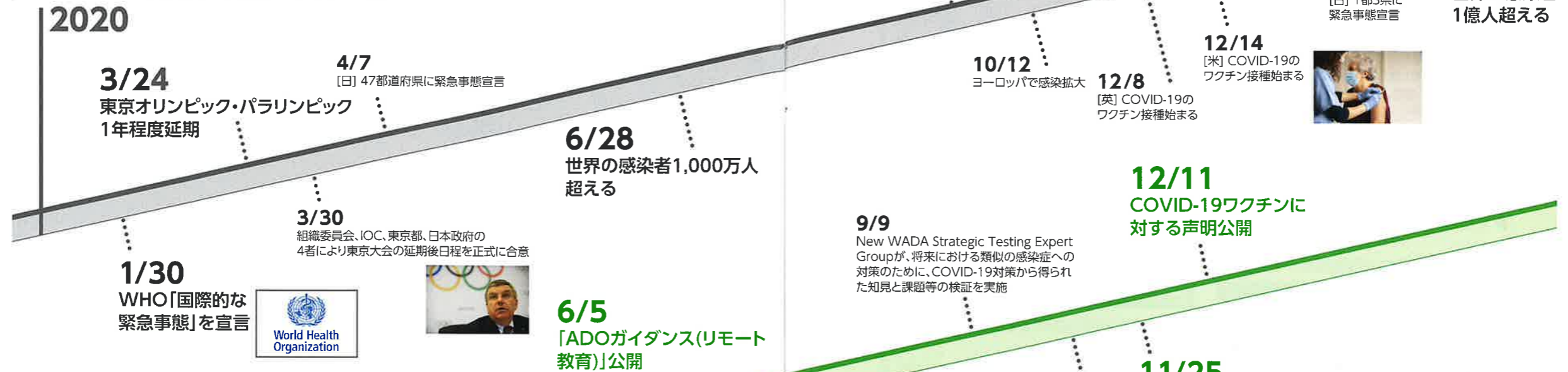
世界アンチ・ドーピング機構(WADA) 会長 Witold Banka

本冊子は、2021年3月1日時点での情報のもとに作成されており、
公開後に情報が更新される可能性があります。

MILESTONES

COVID-19をめぐる国内外のアンチ・ドーピングの動き

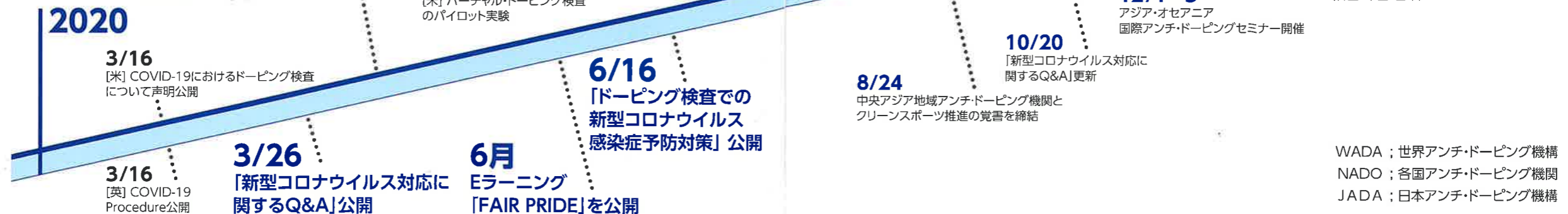
▶ COVID-19と国内外の出来事 国内・国際



▶ WADAの対応



▶ 各国NADO/JADAの対応



WADA ; 世界アンチ・ドーピング機構
 NADO ; 各国アンチ・ドーピング機関
 JADA ; 日本アンチ・ドーピング機構

スポーツのインテグリティを守る コロナ禍でのドーピング検査の継続と進化

WHOより国際的な緊急事態が宣言され、CHINADA(中国アンチ・ドーピング機関)でのドーピング検査一時停止が報告された2月初旬より、WADAはグローバルなクリーンスポーツ・ムーブメントが途切れることが無いよう、メッセージを発信するだけでなく、具体的なガイドラインを示し続けてきた。
特に、ドーピング検査においては、アスリートとアンチ・ドーピング関係者の健康を最優先事項に置くとともに、スポーツイベントが再開されたのち、アスリートがその環境をグリーンであると確信がもてるよう、各国・地域での状況は異なるもののWADAのガイドラインに則った活動が継続された。

【 COVID-19: Anti-Doping Organizationsガイドンス 】

- WADA-NADOアドバイザリーグループの議論を経て取りまとめ
- 公開日:2020年3月20日

ガイドンスには以下の活動領域等が取り上げられている

ドーピング検査

- ・検査実施の際の、アスリート、検査員等の健康と安全の保護
- ・国内状況が十分に安定しない場合は、リスクの高い競技を優先して検査を実施



居場所情報の収集

- ・検査対象者登録リストに登録されたアスリートの居場所情報を収集
- ・提出された情報が要件を満たすことを確認



アスリートサポート

COVID-19対策や最新情報をアスリートへ提供



TUE (治療使用特例)

アスリートが検査対象である限り、必要に応じて有効なTUEが求められる



WADA認定分析機関

WADAはラボ・エキスパートグループと連携し、認定分析機関に包括的なガイドラインを提供



教育

- ・ドーピング検査と同様にリスク評価を実施
- ・オンラインによるデジタル学習の検討



アスリートの検査対応

政府による強制的隔離やロックダウンが無い限り、アスリートはドーピング検査を拒否することはできない



コミュニケーション

COVID-19によるアンチ・ドーピング機関の業務への影響について、ステークホルダーに情報を提供



検体の搬送に影響を与える国境閉鎖

国境閉鎖により、検体分析のための国外搬送ができない場合、検体の完全性を維持するための適切なシステムを確立



コンプライアンス

WADAがコンプライアンスについて求める要件を変更する計画はないが、求めるレベルの柔軟性を保証



【 ADO ガイダンス <ドーピング検査再開に向けて> 】

●公開日:2020年5月6日

【 ADO ガイダンス <COVID-19パンデミック中のドーピング検査> 】

●公開日:2020年11月25日

2つのガイダンスは、「世界アンチ・ドーピング規程」「検査およびドーピング調査に関する国際基準(ISTI)」に準拠し、アスリート、ドーピング検査員等の健康と安全を踏まえた具体的な内容が取り纏められている。



自然科学分野の研究推進と、戦略的なドーピング検査の実施

COVID-19パンデミック中にドーピング検査数が減少した期間があったとしても、ドーピングを見逃さずスポーツのインテグリティを維持するための科学的なデータ分析や、自然科学分野の研究が推進されている。

アンチ・ドーピングにさらなる革新が求められている。

各分野の専門家、アンチ・ドーピング・コミュニティと協力して、特にドライ・ブラッド・スポット(DBS)と人工知能の分野において、新しい検体採取方法と分析技術の研究を強化していく。

(WADA会長 Witold Bańka)

世界的なアンチ・ドーピング・システムとは、単なる「ドーピング検査」ではない。例えば、アスリート・バイオロジカル・パスポート(ABP)は、アスリートの長期的なプロファイルの評価するのに有効なツールである。

(WADA事務局長 Olivier Niggli)



ドライ・ブラッド・スポット(DBS):

指先の穿刺によって血液を採取、乾燥させることで、アスリートへの侵襲性を減らし、これまで諸々の制約があったドーピング検査における検体搬送や保管の簡便化が図れる技術

WADAガイダンスに則った国内の取り組み

- ・ガイダンスを踏まえた検査プログラムの評価を行い、ドーピング検査を計画
- ・WADAガイダンスおよび厚生労働省等の国内行政機関からの通知を踏まえ「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を作成し、競技団体、アスリートへ周知
- ・ドーピング検査員に対して、オンラインにて研修会を行い、国際基準に準拠した検査を継続して実施

新型コロナウイルス 感染症予防対策



WADAの調査結果レポート Impact of COVID-19

2020年9月、WADAはCOVID-19が世界のアンチ・ドーピング・プログラムに与えた影響を評価すること、さらにWADAから提供した数々のガイダンスをより良いものに発展させていくことを目的に、世界のアンチ・ドーピング機関を対象に調査を行い、結果を報告した。

参照：https://www.wada-ama.org/en/media/news/2020-11/wada-publishes-ado-survey-outcomes-concerning-impact-of-covid-19-on-anti-doping

【回答率と回答者属性】

- 247のアンチ・ドーピング機関を対象とし、約半数の機関から回答
- 回答者属性
 - 各国のアンチ・ドーピング機関…………… 75%
 - 国際競技連盟…………… 10%
 - その他(各地域アンチ・ドーピング機関 など)…………… 15%

以下、抜粋(一部、小数点第2位四捨五入)

各アンチ・ドーピング領域において、COVID-19のパンデミックの影響を受けたレベルはどの程度でしたか?

| 選択肢 | 全く無 | 少し | 幾分 | かなり大きい | とても大きい | 合計 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 活動全般 | 6.7% 7 | 18.3% 19 | 25.0% 26 | 33.7% 35 | 16.3% 17 | 104 |
| ドーピング検査 | 0.0% 0 | 2.9% 3 | 9.7% 10 | 30.1% 31 | 57.3% 59 | 103 |
| 教育 | 4.8% 5 | 14.4% 15 | 24.0% 25 | 28.9% 30 | 27.9% 29 | 104 |
| 結果管理 | 22.6% 23 | 23.5% 24 | 30.4% 31 | 13.7% 14 | 9.8% 10 | 102 |
| TUE | 47.1% 48 | 19.6% 20 | 22.6% 23 | 7.8% 8 | 2.9% 3 | 102 |
| インテリジェンス活動 | 25.5% 26 | 22.6% 23 | 32.4% 33 | 11.9% 12 | 7.8% 8 | 102 |

《具体的な回答例》

- ◆活動全般
リモート勤務や、デジタルプラットフォーム活用への変更(21団体/70団体中)
- ◆ドーピング検査
a) 検査計画の再調整(14団体/70団体中)
b) 新しい検査プロトコルの開発(9団体/70団体中)
- ◆教育
オンラインツールを活用した教育を積極的に活用(21団体/70団体中)
- ◆結果管理とインテリジェンス
バーチャル環境での実施もしくは延期(4団体/70団体中)

どのタイミングで、ドーピング検査の再開を決定しましたか?(複数回答可)

| 選択肢 | 回答 |
|--------------------|----------|
| 政府、当局(スポーツ、健康)との協議 | 50.6% 46 |
| 自国(又はその他の国)での規制の解除 | 65.9% 60 |
| スポーツイベントの再開 | 31.9% 29 |
| WADA認定分析機関の再開 | 15.4% 14 |
| その他 | 29.7% 27 |
| 合計 | 91 |

ドーピング検査を再開した際に、どのようなタイプの検査を優先しましたか?(複数回答可)

| 選択肢 | 回答 |
|-------------------------|----------|
| OOCT、アスリート自宅のみ | 33.3% 30 |
| OOCT、トレーニング場のみ(自宅訪問なし) | 25.6% 23 |
| OOCT、場所による制限なし | 42.2% 38 |
| OOCTとICT | 20.0% 18 |
| ICTのみ | 2.2% 2 |
| 尿検体のみ | 55.6% 50 |
| 血液検体のみ | 1.1% 1 |
| 血液検体と尿検体 | 20.0% 18 |
| RTPアスリート、高リスクアスリートのみを対象 | 54.4% 49 |
| すべてのアスリートを対象 | 11.1% 10 |
| その他 | 27.8% 25 |
| 合計 | 90 |

OOCT：競技会外検査 ICT：競技会検査
RTPアスリート：検査対象者登録リストに登録されたアスリート

グリーンでフェアなスポーツを守る 2021CODEとアスリートの権利

2021年世界アンチ・ドーピング規程(2021CODE)が、2021年1月1日より施行された。2021CODEでは、アスリートの健康とともに、グリーンでフェアなスポーツに参加するアスリートの権利が強調されている。また、各国、各スポーツでのCODEおよび国際基準の実践については、「署名当事者の規程遵守に関する国際基準」によりモニターされるとともに、クリーンスポーツを守る環境を担保するために、WADAからのサポートプログラムが公開された。

【Code Implementation Support Program (CISP)】



各組織の2021CODE遵守への準備がCOVID-19パンデミックの中に行われることとなった。WADAはCode Implementation Support Program (CISP)を立ち上げ、統一的で効果的なアンチ・ドーピング活動が世界中のあらゆるスポーツで確実に実施されるようサポートした。

主なコンテンツ



CODEと国際基準の主要な変更点プレゼンテーション資料



ウェビナー(録画/ライブ)



チェックリスト

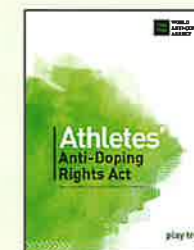


ファクトシート

アスリートからアスリートへ

アンチ・ドーピングにおけるアスリートの権利宣言 Athletes' Anti-Doping Rights Act

クリーンスポーツの実現のためには、アスリートが自身の権利を理解し、行使できることが不可欠である。2021CODEでは、これまで記載されていた「アスリートの権利」がさらに強調され、またCODE、国際基準に記載されているアスリートの権利が、改めて「権利宣言」としてまとめられた。この権利宣言は、クリーンスポーツに参加する権利を求めるアスリートの声によって生まれ、WADAアスリート委員会を中心に、アスリートからアスリートへ情報発信がされている。



COVID-19に関するアスリートQ&A

COVID-19のパンデミックを踏まえ、WADAアスリート委員会が中心となって世界中のアスリートに向けて取りまとめられたQ&A。内容についても、ライブウェビナー等を活用して、アスリート委員、WADA等が協働してアスリートに呼び掛けている。



- 【アスリートの反応】 Impact of COVID-19より抜粋
- 検査員の対応について言及があり、ドーピング検査を受ける時に安心して対応することができた
 - Q&Aは有益であった。パラアスリートの情報へのアクセスを担保するために、ビデオコンテンツがあると良かった

コロナ禍でのクリーンスポーツへの参画 デジタルラーニングの最大活用

2021年1月より、「教育に関する国際基準」が新設された。これまで世界アンチ・ドーピング規程に記載されていた「教育」に関する事項が国際基準化されることで、その基本原則や主たる要件、署名当事者間での役割と責務が明確にされた。

【基本原則ポイント】

- アスリートにとって、検査ではなく「教育」がアンチ・ドーピングにおける最初の経験となるべき
- 全てのアスリートは、クリーンにスポーツへ参加し続けることを望んでいる。そのために、アンチ・ドーピングプログラムはその目標を支えるものであるべき



【ADO ガイダンス <リモート教育プログラム>】

- 公開日:2020年6月5日
- ・ COVID-19パンデミックの中、アスリートのクリーンスポーツに参加する権利を保護するための方法の1つとして、リモート教育プログラムのガイダンスが公開された
- ・ E-ラーニングなどのリモート教育ツールは、アスリートやサポートスタッフが都合の良い時間に教育を受けることができる。デジタルツールを活用することで、アスリートにとって、学習プロセスを魅力的で効果的なものにできると期待される



教育計画

COVID-19パンデミック
期間中の短期教育計画の
策定を推奨



対象とステークホルダー

・ アスリート、サポートスタッフ
・ 教育推進のステークホルダー
(国内競技団体など)



ツールとプラットフォーム

・ WADA制作ADEL
・ 各国制作のE-ラーニング
・ SNSチャンネル・ウェブサイト等

ADEL(アデル)

グローバルなアンチ・ドーピングに関する教育と学習プラットフォーム

WHO

対象者



アスリート

サポート
スタッフ

競技レベルや、サポートスタッフの専門性に合わせて、
各種コースが設定

WHAT

コンテンツ



E-ラーニング、各種教材、クイズやウェビナーなど
随時追加、更新



<https://adel.wada-ama.org/learn>
※だれでもアカウントを作成して、学習可能!

グローバルなパートナーシップ アンチ・ドーピング機関の協働

全世界が一つになってCOVID-19に共に立ち向かっていることと同じく、COVID-19パンデミックの中においても、クリーンスポーツとクリーンアスリートを守るための活動は、グローバルな協働によって推進されてきた。

WADA常任理事会・理事会

12名の常任理事および、38名の理事によって、2020年11月11-12日にビデオ会議にて開催



- WADAガバナンス再構築の推進
 - ▶ 常任理事会が、WADAのガバナンス再構築レビューに関する新しいワーキンググループを設置
 - ▶ 理事会における投票で、常任理事会における2名の独立メンバーが決定
 - ▶ 政府や競技団体から独立した会長と副会長の選任
 - ▶ 常任理事会、理事会、専門委員会メンバーの最大3回(3年/回)の再任上限
- アスリートの参画を拡充するための取り組みの継続
- 2021年WADA専門委員会メンバーの決定
- 国際ウェイトリフティング連盟におけるドーピング調査の進捗

ITAと国際競技連盟との連携



- ITAは
 - ▶ ドーピング検査の中立性確保を目的にIOCにより設立
 - ▶ 現在は、ドーピング検査だけでなく、教育や、治療使用特例(TUE)、インテリジェンス活動などアンチ・ドーピングにおける主要領域をカバーする一貫したサービスを提供
 - ▶ オリンピック競技大会ではIOCから委託を受け、ドーピング検査を実施
- 2021年1月の時点で、20を超えるオリンピック競技種目の国際競技連盟と業務委託契約/連携を行い、サービスを提供している

第2回 3NADOs会議

2020年12月に第2回 3NADOs(KADA; 韓国、CHINADA; 中国、JADA)会議をオンラインにて開催



- COVID-19パンデミック中でのアンチ・ドーピング活動報告
- 2021CODEおよび教育に関する国際基準の各国での導入の共有
- 平昌大会、東京大会、北京大会を通して得られるドーピング検査員の経験値の共有など、大会レガシーをもとにした3NADOsのさらなる連携を確認



勝利を超える
価値がある

勝利を超える価値がある

私たちは信じる。正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれた友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にあるフェアネスの心からはじまる。

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

〒112-0002 東京都文京区小石川一丁目12番14号 日本生命小石川ビル4階

TEL. 03(5801)0939 FAX. 03(5801)0944

<https://www.playtruejapan.org/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業